

登竜門企画「20歳のころ」

Load to best leader

-目標となる、偉大な人物を見つけろ-

C 班 上田拓弥 野島駿祐 林桃子 和田梨那

<はじめに>

私達は、登竜門企画である「二十歳のころ」に取り組むに当たり、まず理想とする人物とはどのような人なのかを考えました。その人物とはリーダーシップのある人、挫折を経験し乗り越えた人、なかでも人を大切にできる人であると考えました。そこで調べ、厳選した結果、ブックオフコーポレーション株式会社の佐藤弘志社長に出会いました。

<紹介>

ブックオフコーポレーション株式会社

社長 佐藤 弘志 (さとう ひろし)

昭和45年 生まれ

平成7年3月 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了

平成7年4月 マッキンゼー・アンド・カンパニーインク・ジャパン入社

平成9年8月 ブックオフコーポレーション(株)入社

平成9年9月 取締役企業戦略室担当

平成19年6月 代表取締役社長

<会社概要>

1990年5月に神奈川県相模原市にBOOKOFF直営店1号店オープン。1991年8月に当社設立し、全国フランチャイズ展開開始。2000年にはハワイに海外1号店をオープン。現在ではパリやソウルにも展開している。中古本の売買だけでなく、ファッション・育児グッズ・おもちゃ・スポーツアウトドア用品・貴金属のリユース専門店を展開。

<インタビュー内容>

・二十歳のころ

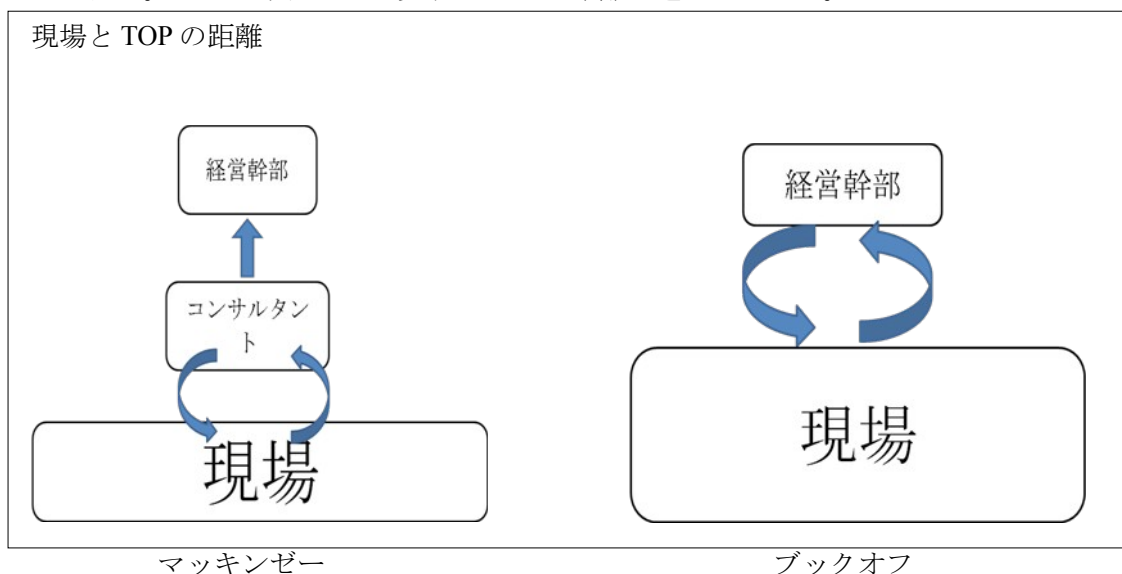
大学時代はESS(英語研究サークル)に所属し、英語で話す力を身につけるために英語でのディベートやディスカッションを行う。他大学と競うことで、相手に勝つための戦略を考えることに面白さを感じ、勝負事に関して強くなる。同時にビジネスで必要な、勝つために人の裏をかく力を身に付けた。しかし、外国人の方がいなかったためしっかりと英語会話能力というものは身に付かなかったとおっしゃっていました。このことから英語をしっかりとやりたかったと思っていました。現在につながっていることは戦略をたてるということの重要性や勝ち負けに対する意識が根付いたということが大きな経験だったとおっしゃっていました。明確な夢はなかったとおっしゃいましたが、マッキンゼーアンドカンパニーに就職した理由は、多くの企業や人と関わり、その中から目標・尊敬できる人に会いたいという願望があったためだそうです。

・マッキンゼーアンドカンパニー時代

1年目から仕事を任される会社の方針があり、新入社員のころから様々な経験を積んでいた。最初は楽しく仕事できていたが、会社の固定的な考えが一番で、自分の考えなどがあまりだせない状況に、もどかしさを感じていた。また自分が先頭にたって経営というものをしたことがないのに、企業の経営陣に意見を述べることに、違和感を抱いていた。そこから自分で何かをやりたいと決意し、マッキンゼーアンドカンパニーを退職したとおっしゃっていました。

・ブックオフ時代（現在）

取締役企業戦略代表として入社。マッキンゼーアンドカンパニー時代の経験を生かし様々な事を実行していった。しかしブックオフとマッキンゼーアンドカンパニーのギャップに気付く。そのギャップとは現場とTOPの距離の違いであった。



このことからより現場を知ろうと思い、店長を志願した。マッキンゼーでの経験を生かして一人で仕事を進めていった。しかし、アルバイトやパートからの反発を受ける。この時、佐藤社長は「自分はこんなにやっているのに…」と反発していた。その状態が続くアルバイトやパートが辞めていってしまい、店自体も崩壊させてしまった。そのため佐藤社長は自分を見失いつつあり、自分も辞めようと考えた。だがしかし、店長を経験したことのある社員から「自分も最初はそうだった」と言われ組織としてのブックオフに気づく。そのことは、人のために汗をかくということや、リーダーのありかたである。組織におけるリーダーのありかたは、1人1人が楽しく仕事ができるようにすること、人を成長させること、とおっしゃっていました。そしてこの考えは社会全体で通じるともおっしゃっていました。

<インタビューを終えて>

佐藤弘志社長は、気さくな方でとても温かみのある人でした。少し緊張気味な私たちでしたが、おかげでとてもスムーズにインタビューを進めることができました。

インタビューを通して、私たちが学んだこと・大切だと思ったことが3つあります。

- ・「勝ち負けにこだわること」
- ・「やる気と自信を持って行動すること」
- ・「人に感謝すること」

私たちが二十歳をむかえるにあたって、これらのことを身につけていきたいと強く感じました。

<反省と感想>

わたしたちは、今回この「二十歳のころ」をやるにあたって、様々なことを経験し学んだ。最初は、戸惑いもあり不安要素しかなかったが、活動を通し、メンバー同士心も通じ合い、日々成長していったと思う。今年は、震災の影響もあり春合宿が開催できないという事で、正直モチベーションが下がってしまったが、これからゼミ活動でも、今回の様な不測の事態が起きないことはないので、そういう所を今後の課題とし、精進していきたい。

<メンバーから一言>

上田：不安な気持ちもありましたが、アポを取れた時はすごく嬉しかった。活動を通してメンバー仲良くできて最高でした。みんなありがとう！！

野島：最初はどうなるかと思ったが、たぶん他の班よりか集まった回数は多いので活動するたびに楽しくできた。この課題があつて本当に良かった！

林：初めてのゼミでの課題ということで、不安と戸惑いがありました。しかし、課題に取り

組む時は真剣に取り組み、楽しむ時は楽しむというオンオフがしっかり出来たと思います。C班メンバー、最高でした！

和田：全体的に楽しく自由に出来ました。佐藤社長にインタビューさせていただいたのは、大きな縁であったと思います。私の漠然としていた日々に、少し生きる方向性を見出せました。そして、班員のみんなありがとう！